

教科別研修講座報告

C621 高等学校英語科研修講座

～CLILアプローチによる次世代型授業設計～

講師 上智大学 教授 和泉 伸一 氏

〈内容の詳細〉

1 Focus-on-Form アプローチに基づく英語教育（講義・演習）

- ・言語形式は異なるコンテキストの中では異なる意味を表す。
- ・コンテキストがあれば未知の言語形式も理解でき、内容豊かなインプットが可能である。
- ・言語習得とは、形式・意味・機能の結びつきの学習であり、その結果コミュニケーション能力が育成される。



2 CLILアプローチに基づく単元設計（講義・演習）

- ・CLILは4つのC(Content、Communication、Cognition、Community)を統合した形で、英語教育の質を高める。
- ・「森(全体を見通したコンテキスト)から木(個々の文の意味や言語形式など)へ、そして森へ」の授業設計はどうあるべきか。
- ・「森」や「木」を意図した活動を複数組み合わせる「ラウンド制」の授業設計例。



〈受講者の声〉

- ・コンテキストを前提とした指導や、「森から木へ」というアプローチは今後の授業の指針になると感じました。
- ・English only で授業しても、全ての学校で使える指導法であると思いました
- ・「英語で伝えなければならない状況」を適切に作る方法を、授業で活用したいです。
- ・Content の大切さを学び、それは Grammar 指導にも役立つと参考になりました。
- ・英語科の教師は、社会情勢、環境問題等、幅広い見識が必要であり、生徒が考える前に、テーマについて自分が考える必要があると感じました。
- ・同じ学年を担当する者と共有し、Teaching Plan を変えていきたいです。